



煌めく川面、 出会いの場所から

柴田町町制施行50周年記念誌



柴田町長
滝口 茂

私たちの町“柴田町”は、昭和31年4月に槻木町と船岡町が合併して50年目を迎えました。50年という一つの節目を迎えた柴田町は、人口が39,810人となり2市7町のトップに躍り出ました。今日の町発展の基礎を築かれた幾多先人のご苦労とご尽力に、心からなる敬意と感謝を表します。

柴田町の輝かしい発展ぶりを振り返れば、昭和31年頃は、まだ家々では牛や山羊や鶏が飼われ、銀座通り商店街や槻木駅前通りに人が集まっていた。決して豊かではありませんでした。未来に希望が持てる時代ではありました。昭和40年代、50年代は、高度経済成長と自動車や新幹線等の交通革命により、産業の生産基盤、道路、橋、上下水道等のライフライン、団地の造成や文化的な施設の整備が進み、町の姿は大きく変貌しました。一方で、四季に彩られた伝統行事や食文化、祭り、結や講による地域の相互扶助は衰退し、町の風情を失ってしまったように思います。

私たちが創り上げようとしている町は、本当に人間にとって幸せな町なのかとの反省が生まれています。ここにきて社会の風向きが明らかに変わってきたように思います。効率性や利便性に裏打ちされた近代的な都市が必ずしも町民生活を豊かにするものではなく、変わることのない地域の風情や町のたたずまいにこそ価値があるとする考え方は、地域のコミュニティ活動やNPOやボランティア活動を通じて新たな生活文化を創造し、情報を発信する力を蓄えることが地域社会を活性化させていくのではないかと思います。豊かな自然の中で、さまざまな人や情報との出会いによって、新たな価値と文化を生み出すコンパクトな都市こそが、人口減少時代における新たな都市モデルとして提起されています。柴田町の未来の都市像をコンパクトシティに求めたいと思います。

白石川や槻木耕土から望む残雪を頂く蔵王の山並みは、日本屈指の魅力的な景観です。この悠久の自然のなかで先人たちが繋いできた伝統や文化に磨きをかけながら、地域の誇りと生きがいを生みだせる、そんな町を築いていきたいとします。その鍵をにぎるのが、そこで生活する人々の地域を見つめる熱い眼差しと草の根のまちづくり運動です。町民一人ひとりがまちづくりに自ら関わることで、本当の意味での豊かな暮らしが得られるのではないかと思います。

50年の節目に当たり、決意を新たに行政と住民が手を携えて、未来への歩みを始めたいと思いますので、今後とも柴田町の発展のために、さらなるお力を賜りますようお願い申し上げます。

平成18年4月

煌めく川面、 出会いの場所から

柴田町町制施行50周年記念誌
目次◆CONTENTS

流れる風景のなかに降り立つ	2
◎阿武隈川	4
◎白石川	4
◎五間堀	6
〔座談会〕	
柴田人、川との暮らしを語る	8
柴田の源流へ	
◎先人の誇りに触れる旅	14
◎先史・原始	16
◎古代・中世	18
◎近世・近代	20
大らかな流れのなかで	
◎町制50年のあゆみ	22
◎昭和三十一年～昭和三十五年	22
◎昭和三十六年～昭和四十年	24
◎昭和四十一年～昭和四十五年	26
◎昭和四十六年～昭和五十年	28
◎昭和五十一年～昭和五十五年	30
◎昭和五十六年～昭和六十年	32
◎昭和六十一年～平成二年	34
◎平成三年～平成七年	36
◎平成八年～平成十二年	38
◎平成十三年～平成十七年	40
〔柴田未来展望〕	
その流れの先へ	42
柴田町特産品	44
	48